

七十五歳の思い

常務理事 渡部 武郎

花の名前

千川あゆ子

「ほととぎす」という

花の名前を

どうしても覚えられない

お父さん。

えん側から庭を見て

「おーいうぐいす草が

咲いているぞ」

ですって

かなしくなっちゃう。

でもお父さんって

会社の中でもっともって

覚えたり

考えたりすることが

たくさんあって

花の名前なんかノーミソの

隅っこに

おかれているみたい。

いいわ、

いつか覚えてくれる

時が来るまで

わたし何度でも

おしえてあげよう。

新津かなえ

この詩は近くの小学校の廊下で見つけたものだ。「文芸クラブ」の掲示板に、画用紙に書かれた6枚ほどの中のひとつである。身近な自然に親しみ、家族を愛し、余裕を持って親に接する子の心。すばらしい表現力。この他に「花のたましい」「つもった雪」「さかな」・・・である。稚拙な書き方ではあるが何れも立派な詩である。感心すると同時に、小学4～6年生にしては？との思いから先生に尋ねると、クラブで詩の本を読み合っている中で、千川氏のこの詩を新津さんが選んだ、とのことであった。少々の気落ちと共に納得した。

私は、月2回この小学校の学習応援隊の一員として「囲碁将棋クラブ」で子供たちと遊んでいる。時々「昔遊び」「割り箸鉄砲の作り方」などの授業に呼ばれたりしている。「剣玉は膝で調子をとってやるんだよ」と持ち方から基本を教えてやって見せる。すると子供たちは、反復繰り返して「もしもし亀よ亀さんよ」が相当のところまで続けられようになったり、時に玉を剣に刺せるようになる子、飛行機旅行とって剣玉を振り回して騒ぎまわる子、両にらみで落ち着かない子、等様ざまだ。此方も面倒を見るのに汗ばむほどで、先生家業も大変だなと思ったりもする。

地域には、小学校の休日に体育館や校庭を地域に開放する「学校開放事業」を主催し、「サッカー、野球、剣道、ゲートボール、子供を遊ばせる」など各会の利用時間帯を調整する仕事をボランティアでやっている人物がいる。子供を遊ばせ会を、30年

以上もご夫婦で主催しながらである。ひよんな機会に誘われて、私も月に一日子供たちと遊ばせてもらうようになって7～8年になる。

昨年卒業式（卒業証書授与式と称しているが）に招待された時のことである。国歌・校歌斉唱に次いで、一人一人壇上に上がり、全員に向かって姓名を名乗り「私の将来の夢は、・・・」或いは「私は中学にいて・・・」を宣言してから、校長の前へ行き証書を拝受して壇上を降りて、我々来客の前で一礼して自席に戻って行く。厳肅な雰囲気の中、けなげにも神妙に振舞う子供達に感動させられた。校長の祝辞・はなむけの言葉、PTA 会長のお祝いの言葉の後が圧巻だった。卒業生と4、5年生それぞれの卒業にふさわしい歌5曲ほどを2部合唱で、曲と曲の間に卒業生の色々な行事の思い出・感謝とお礼・4、5年生へのお願いなどの言葉の一節ずつを、一人一人大声で言うのである。あちらから此方から飛び出てくる。

4、5年生からは何人かの代表が「皆さんがしたように小学校を楽しくしていきます」と約束の言葉。この頃には目頭をハンカチで覆う子供が多数。

この演出と練習には先生も生徒も時間をかけて励んできたのだろうと、頭が下がった。

先日、「体操の選手になってオリンピックに行く」と宣言した子供のお母さんにお会いしたら「土曜も部活で鍛えているので筋肉がつき、たくましく・・・」と嬉しそうに話していた。「囲碁将棋クラブ」の中で集中力と聡明さ抜群で、1年の間に一

番上達した子だ、見事に有名私大付属中学校に入学した。

このように、学校、親、地域も教育に熱心に取り組んでいるにもかかわらず、新聞、テレビでは犯罪事件報道が毎日花盛りの状況である。庶民の凶悪事件、企業の経済犯罪、役所の犯罪に近い無責任体制、政治家の違法事件、教師も、警察までも、の状況である。中でも、母親の幼児いじめ、殺害事件、犯罪の低年齢化、万引きを罪とも思わない、などには心が痛む。

先日の国会中継・参議院予算委員会で、教育現場で「男女平等や男女共同参画」がどのように進められているかをテーマにした質疑があった。家庭科教科書の読むに耐えないような内容を多々示し、子供たちは性を軽んじるようになるばかりでなく、健全な結婚観や家族観を持てなくなるだろう。そして、**不特定な他人との性的接触**についての**中学高校生**へのアンケート調査で、**七割が異常と思わない**。その結果としてか、厚労大臣の答弁の中に、**15歳から25歳の性病の蔓延**状況に関する、或る調査結果数値を読み上げる。小泉総理も「こんなことが？」と首をひねる。

最近の新聞紙上に「自己中心で刹那的 日本の高校生」の見出しで、日・米・中三カ国の高校生を対象にした意識調査結果が公表された。日本の高校生は「将来を思い悩むより、その時を大いに楽しむべきだ」「親の面倒をみたくない」と考える割合も三カ国中で最も多い。さらに、

「未来は輝いている、まあ良いほう」
日；54% 米；69% 中；80%
「結婚しても家族の犠牲になりたくない」
日；31% 米；23% 中；14%
「国に誇りを持っている；強く、やや、の合計」
日；51% 米；71% 中；79%
「国旗・国歌で姿勢を正すか」
日；30% 米；82% 中；67%

調査結果は情けない我が国の姿を現している。

2年ほど前テレビで、横須賀に停泊中の米国空母探訪を流していた。二十歳前後のタレントが艦長インタビューに次いで、艦内見学、その最後に廊下で出会った同年代の水兵さんに「日本がよその国から攻められたとき、あなたは日本を守ってくれますか？」とタレントが質問した。暫くきょとんと思案してから「上官の命令があれば何でもします」との

水兵さんの模範解答に、タレントは体をよじるげさな身振りで「ああ助かった、これで安心できます」である。ほんとに驚いた、だがこれが日本の常識なのだ。日常生活の中で一对一の若者の会話として、こんな不自然なことがあるだろうか？ テレビ局のシナリオどおりに演じたまでのことなのだろうが、情けない。

わが国の次の時代を担う若者たちの価値観も多様で、フリーター、ニートや、ボランティア活動に参加したり、将来の夢に向かってスポーツに、勉学に励んでいる若者達もいる。一番心配なのが50万人とも言われるニート（就職、就学、職業訓練のいずれもしていない人）、働くという意味での社会参加に対する意欲を喪失し、または奪われている人たちである。飽食の時代の産物なのか。これが我が国の**教育の・社会の現状**である。

史上初めての敗戦に自信を失った我が国は、過去を捨て、安全保障を他国に任せ、ひたすら経済発展に邁進してきた。おかげで、世界第二位の経済大国にまで成長した。然しバブルの崩壊で、経済のみに支えられて回復したかに見えた自信は、再び一挙に吹き飛んだ。戦後日本を蝕んできた心の荒廃が一挙にあらわとなったのだと思う。

一神教のような厳しい戒律のないまま、戦後の憲法と教育の下、公をないがしろにして、ただ個人の自由と権利を横行させてきた。

「自らに誇りを持ってない人間は誰からも尊敬されない」とよく言われているが、自国を愛せない人間も同様と思う。

以上の反省から現在「構造改革」「憲法と教育基本法の見直し」が進みつつある。好ましい流れなので、微力ではあっても戦中戦後を生き抜いてきた者の責任として、私は政治、マスメディアに注意を払ってゆきたい。HEARTの会・友人・近隣の人達との交流を通して一層の研鑽を積み、身近な家族達にしっかり語りかけてゆきたいと思っている。ヤオヨロズの神の国・日本；あらゆる宗教を許容しうる国・日本。それにしても、個々人・私の心を律するものとして、以前、会報第6号に書いた「お天道様に思う」を思い出す。

「お天道様に恥じるような大事な時にしっかり叱る。その他の時には出来るだけ自由に、おおらかにと考える」でいこうと思う。